

22 医療社会福祉部



医療社会福祉部には、社会福祉士と精神保健福祉士の資格をもつソーシャルワーカーが現在9名在籍し、患者さんが抱える療養中の様々な課題への援助を行なっている。また、がん相談支援センターや認知症疾患医療センターにソーシャルワーカー各1名を配置し、専門の相談支援を実施している。

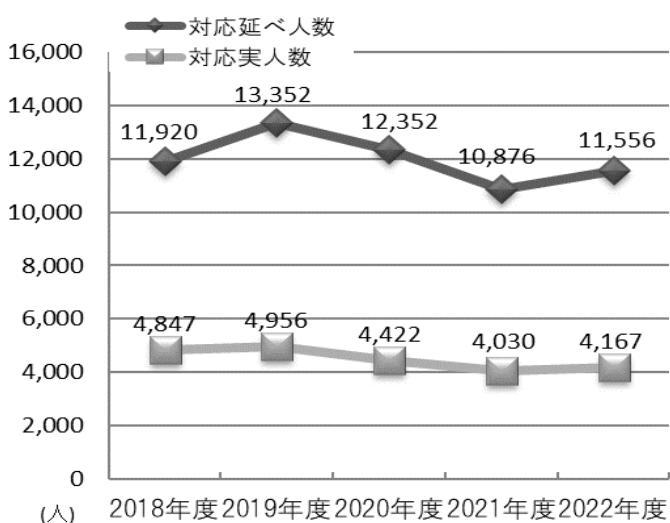
援助内容は、転院や在宅サービス調整などの退院支援、訪問診療や緩和ケア病院等の受診・受療援助のほか、経済的問題、育児・介護や家族関係に関わる支援、就学・就労等の社会復帰支援など多岐にわたる。

対応人数の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響により対応実人数・対応延べ人数ともに2020年度より減少傾向であったが、2022年度は回復傾向にある(22-1)。これは、とくに救命救急センターでの新型コロナウイルス感染症に関わる診療体制の変更により転院調整の件数が通常近くに戻ったことや、面会制限の緩和によって患者さん・家族への面接等の頻度が増えたことなどが要因と考えられる。2022年度援助内容の構成比率は例年とほぼ変わらず、退院支援が約半数を占め次いで経済的問題への支援が多い(22-2)。診療科別では、脳神経外科の対応延べ人数が例年通り最も多くなっている(22-3)。

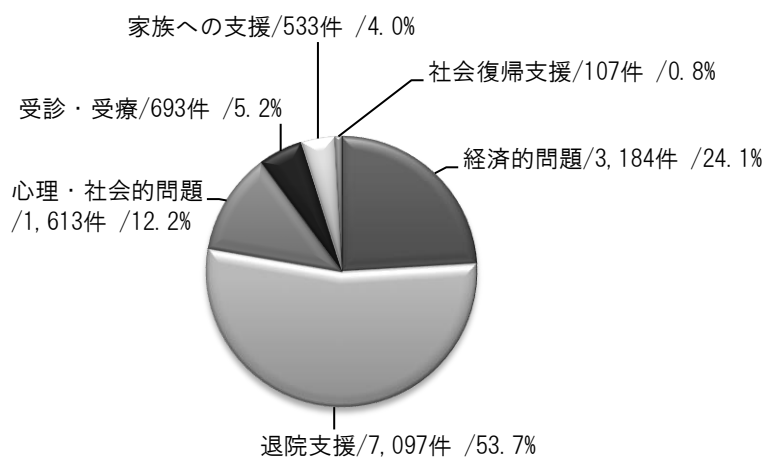
また、2022年度の動向として、診療報酬の改定により養育支援体制加算など社会福祉士の専任届や支援チームの設置を要件とする加算が増えた。ソーシャルワーカーも専任配置を行い、多職種とともにチームの一員として参画を始めた。また、入退院支援加算の対象となる退院困難な要因に、ヤングケアラーに関わる項目が追加されている。これらは、患者さんの社会的背景がより複雑化し、医療において患者さんの生活面に関わる福祉の視点がより重視されたものであり、社会福祉の専門的立場から医療に貢献できる点といえる。

今後も、社会情勢に応じ、患者さんの潜在的なニーズにも幅広く対応できるよう支援の質を高め、他職種・他機関と協働・連携しながら、患者さんが安心して医療を受けられるよう努めていきたい。

22-1 対応人数の年度別推移



22-2 2022年度援助内容の構成比率(合計13,227件/対応延べ件数)



22-3 2022年度 診療科別・対応延べ人数

区	分	件	数	構成比率(%)	区	分	件	数	構成比率(%)
循環器内科		696		6.0	乳腺・内分泌外科		105		0.9
血液内科		1,057		9.1	心臓血管外科		195		1.7
アレルギー・リウマチ内科		74		0.6	呼吸器外科		305		2.6
糖尿病・内分泌・代謝内科		14		0.1	整形外科		56		0.5
肝・胆・膵内科		133		1.2	形成外科		21		0.2
消化管内科		109		0.9	脳神経外科		3,383		29.3
炎症性腸疾患内科		136		1.2	皮膚科		2		0.02
呼吸器内科		370		3.2	泌尿器科		195		1.7
脳神経内科		394		3.4	産科婦人科		430		3.7
腎・透析内科		127		1.1	眼科		90		0.8
小児科 / NICU		560		4.8	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		332		2.9
肝・胆・膵外科		15		0.1	放射線科		2		0.02
小児外科		5		0.04	歯科口腔外科		61		0.5
上部消化管外科		7		0.1	救命救急センター		1,397		12.1
下部消化管外科		990		8.6	精神科神経科		47		0.4
炎症性腸疾患外科		185		1.6	その他		63		0.5
					合計		11,556		100.0